

2025年度 オリンピック強化戦略



オリンピック強化委員会
委員長 宮本 貴文
2026/1/24更新版

0-①. 前提1：環境認識（直近20年(2004-2024)各国メダル獲得数一覧）

順位	国名	GOLD	SILVER	BRONZE	合計
1	GBR	13	8	5	26
2	AUS	9	6		15
3	NED	6	3	5	14
4	ESP	5	3	2	10
5	BRA	4	1	2	7
6	NZL	3	5	2	10
7	CHN	3	2	2	7
8	ITA	3	1	2	6
9	AUT	3	1	1	5
10	FRA	2	4	8	14
11	DEN	2	2	5	9
12	USA	2	2	2	6
13	ISR	2	1	1	4
14	SWE	1	3	4	8
15	CRO	1	2		3
16	ARG	1	1	3	5
17	GRE	1	1	2	4
18	NOR	1		2	3
19	SLO		3	1	4
20	CYP		2		2

順位	国名	GOLD	SILVER	BRONZE	合計
20	UKR		2		2
22	GER		1	4	5
23	POL		1	3	4
24	FIN		1	1	2
24	JPN		1	1	2
26	CAN		1		1
26	CZE		1		1
26	IRL		1		1
26	HUN		1		1
26	LTU		1		1
31	BEL			1	1
31	PER			1	1
31	RUS			1	1
31	SGP			1	1



➤ 過去20年間で日本は470で2個のメダルを獲得しています。アジア圏では中国に次ぐ記録ですが、中国には大きく水を開けられ、欧米の中小諸国と同程度の実力と評価できます。
 ➤ **今後の競技力向上においては470での継続的なメダル獲得と、その他のクラスの實力の底上げが必須の課題**です。



公益財団法人 日本セーリング連盟
 オリンピック強化委員会
 Japan Sailing Federation Olympic Training Committee



0-②. 前提2：環境認識（競技を取り巻く環境の比較）



- ✓ セーリング先進国の欧米・オセアニア諸国では各地のヨットクラブ等が地域コミュニティとして機能しながら、各地域におけるセーリングの普及、及び当該地域の有望選手の発掘から育成までの機能を担っています。ヨットクラブはイギリスやアメリカにおいて1000を超える登録数があり、非常に裾野は広い状況です。
- ✓ ナショナルチーム等のオリンピック強化については、一定の条件をクリアした各地の育成選手が強化対象選手に認定され、中央競技団体がサポート等を行うのが一般的です。



- ✓ 我が国のセーリングの普及、及び有望選手の発掘育成は、主に高校・大学等における部活動と、一部のジュニアヨットクラブ・県連等によって下支えされる格好となっており、オリンピック強化という文脈においては470・ILCA6クラス等の部活動採用艇種を除いて、一貫した育成・強化体制が整っているとは言えない状況です。
- ✓ オリンピック採用艇種はIOCの要請等に基づいてWorld Sailingによって随時変更が加えられるため、部活動の採用艇種をオリンピック艇種等に都度変更・統一することは現実的な解とは言い難い状況にあると言えます。

オリンピックでの活躍を志す選手が、ジュニア・ユース世代のうちからオリンピック艇種/オリンピックジュニア艇種に継続的に取り組む事のできる環境の構築が我が国のオリンピック強化においては必要不可欠であり、オリンピック強化委員会が主体となって取り組むべき課題として認識した上で、**2021年より「HOPE育成プログラム」を実施**しています。

0-③. 前提3：環境認識（オリンピック強化委員会の財政状況）

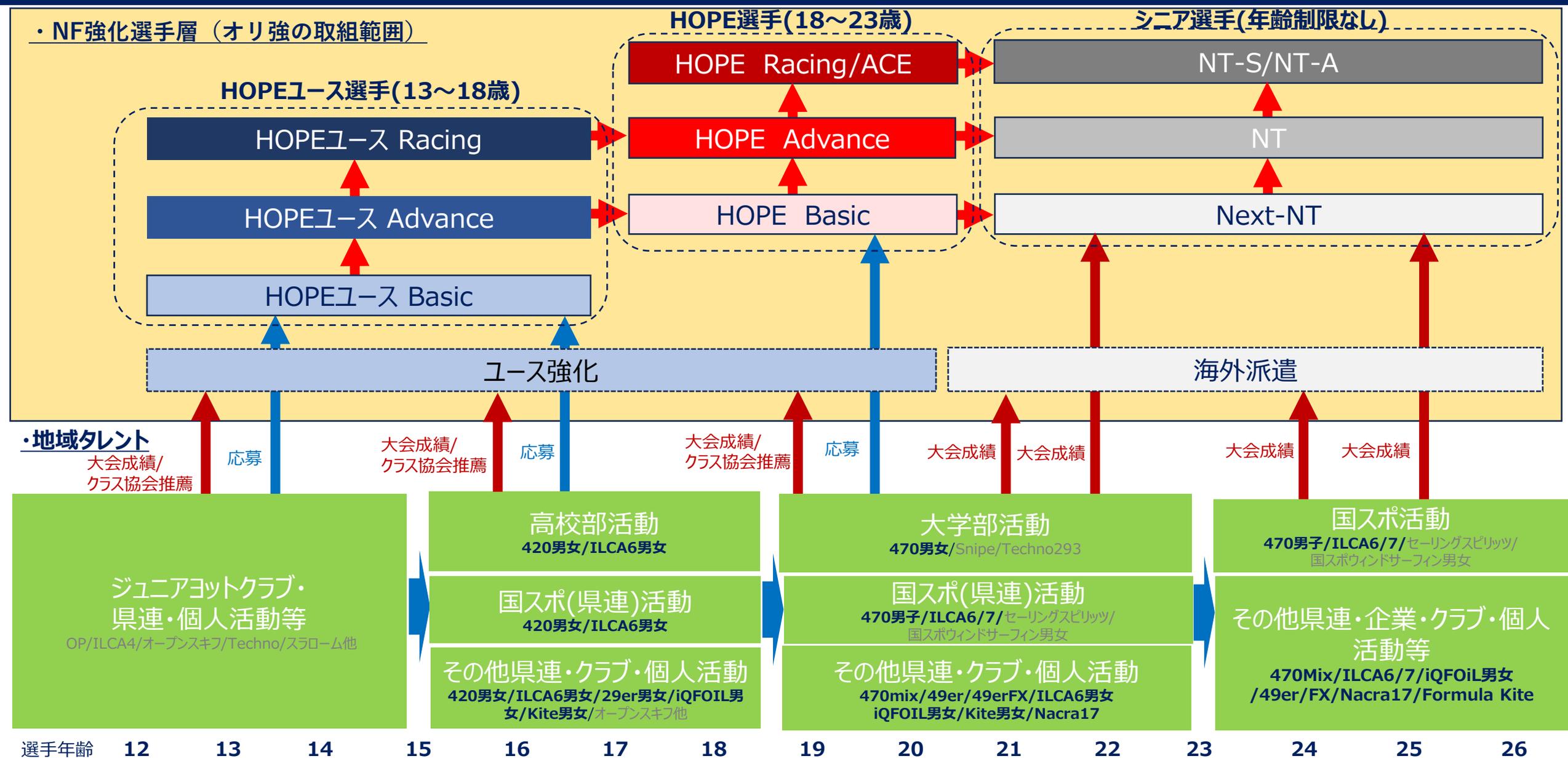
- ✓ オリンピック強化委員会の財源は主に①選手強化NF事業、②有望選手発掘育成事業(toto)の助成金に依存しており、特にシニア選手をサポート可能な財源は①の一部に限られています。
- ✓ ①、②の助成金対象経費の自己負担部分(0%～33%)のうち、対象選手からの参加費用で賄えない部分についてはJSAF本体の自己資金(過去の積立金)を充当しています。但し、これらの財源にも限りがある為、現在の活動を維持・継続していく為にはその他自己財源の確保によって、オリンピック強化委員会単体での収支を均衡以上とする必要があります。
- ✓ オリンピック強化委員会のHPD/ヘッドコーチ/コーチ/一部スタッフの登用については、①のうちコーチ設置事業と呼ばれる財源を活用していますが、こちらの財源にも一定のキャップがあります。

●オリンピック強化委員会の財源内訳(イメージ)：全体 220～230百万円程度

①選手強化NF事業 110 (シニア選手40、コーチ設置50、次世代20)	②有望選手発掘育成(toto) 60～70	③参加費収入 30	④その他 収入 10	⑤JSAF 自己資金 10
---	--------------------------	--------------	------------------	---------------------

- 限られた人的・物的リソースを効率的に活用する為、我が国におけるアスリートパスウェイにおいて、次ページの通りオリンピック強化委員会の取組範囲を限定しています。
- 特に予算の制約条件が厳しいシニア選手向けのサポート・強化については、階層を明確化し、オリンピックでの入賞・メダル獲得ラインにより近いチームにおいてより多くの資金やサポートを受けられるような制度設計としています。
- 次世代育成・強化においては比較的潤沢な助成金予算を活用、JSAF自己資金のキャップに留意をしながら各種施策を進めています。

0-④. 前提4：セーリング競技のアスリートパスウェイ概念図 / オリンピック強化委員会の取組範囲



1. LA2028大会に向けたオリンピック強化委員会の強化戦略アウトライン (2024年12月理事会付議事項)

✓ 2022年度以来掲げてきた3つの方針を継承しつつ、セーリング競技の持続的成長を更に加速できる体制を整える為に、「**より強く(Enhance)**、**よりひろく(Expand)**、**未来へ繋げる(Lead to the future)**」をキーワードとして各種施策を展開します。

① **より強く(Enhance)** : LA2028大会での連続メダル獲得(470クラス)、1種目以上の入賞

➤ Paris2024大会での実績を一過性のものとせず、LA2028大会では引続き470MIX種目でのメダル獲得と、その他種目で1種目以上の入賞を目標値に設定し、ターゲットアスリート (NT-S、NT-A選手) のサポート・強化を行う。組織内に「LA2028メダル獲得PT」を設置。

② **よりひろく(Expand)** : LA2028大会に向けた次世代強化/LA2028大会での国枠獲得種目の維持・拡大

～「HOPE育成プログラム」の深化、HOPE選手/NT・Next NT・海外派遣選手をタイアップした個別強化施策の実施～

➤ HOPE選手の成長に応じて育成プログラムの内容をより実戦・個別強化重視の方向性にシフト。NT・Next-NT・海外派遣選手並びに各クラス協会等とタイアップをし種目別合宿を展開し、各種目における国内競争力の維持・向上していくことで、代表枠獲得種目の維持・拡大を図る。

③ **未来へ繋げる (Lead to the future)** : Brisben2032以降を見据えた持続的成長可能な組織体制整備

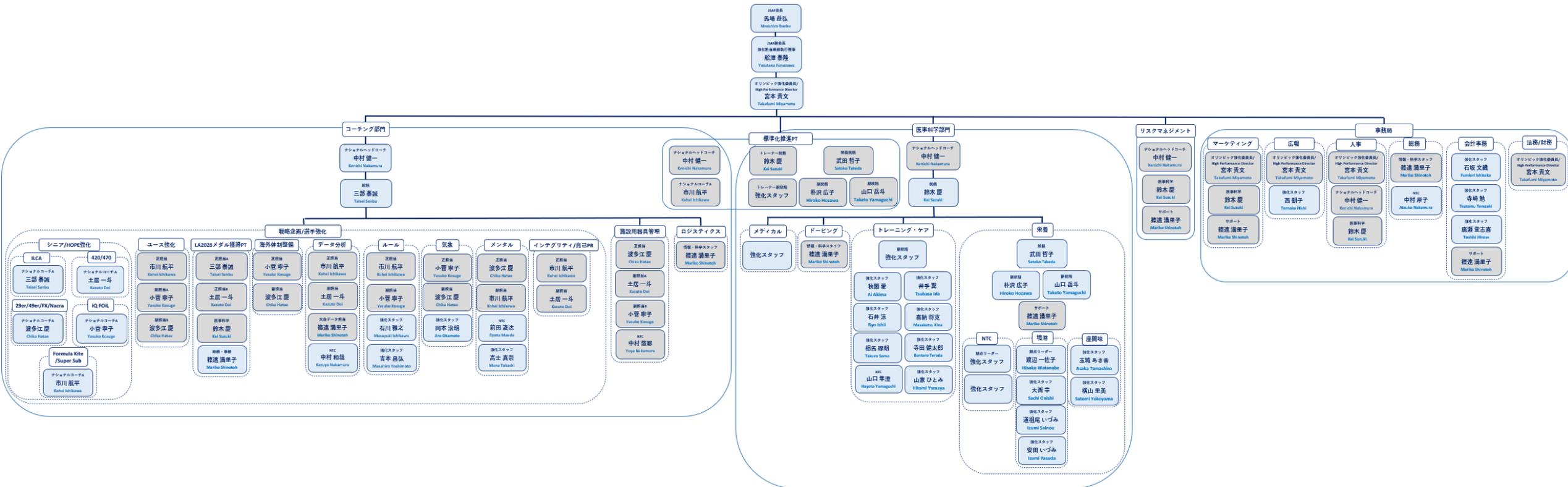
～JSAF自己財源の拡充、強化拠点機能の強化、スタッフ人材育成、育成・強化教材のアップデート・横展開～

- スポンサー獲得等による自己財源を拡充することで毎年発生するJSAF本体からの準備金引当を実質的にゼロとし、自律的な運営を可能にする。
- NTCを含む各強化拠点の自治体等と連携し、施設・備品・医科学連携に関する機能強化を図り、質の高い合宿が遂行可能な環境構築を行う。
- コーチ、トレーナー、その他専門スタッフが選手の指導経験や海外遠征帯同経験を積める実戦の場を提供し、強化スタッフの人材育成を行う。
- 組織内外での育成・強化の標準化を目的として、HOPE育成プログラム等での指導に活用する教材をアップデートし、横展開を行う。

2. オリンピック強化委員会の2025年度推進体制

【前年度からの変更ポイント】

- ✓ 新たなコーチスタッフを迎え、HOPE選手を軸にクラス別強化を推し進めると共に、各分野に正副担当(兼務)を設置し取組を加速。
- ✓ LA2028メダル獲得PT及び標準化推進PTを設置し、分野横断的な取組を併せて推進します（詳細後述）。
- ✓ トレーナー・栄養分野に副統括を設置し、各人の役割分担を明確化、各種施策の遂行・管理をしやすい体制へアップデート。
- ✓ リスクマネジメント部門を設置し、有事の際等における組織対応力向上を目指します。

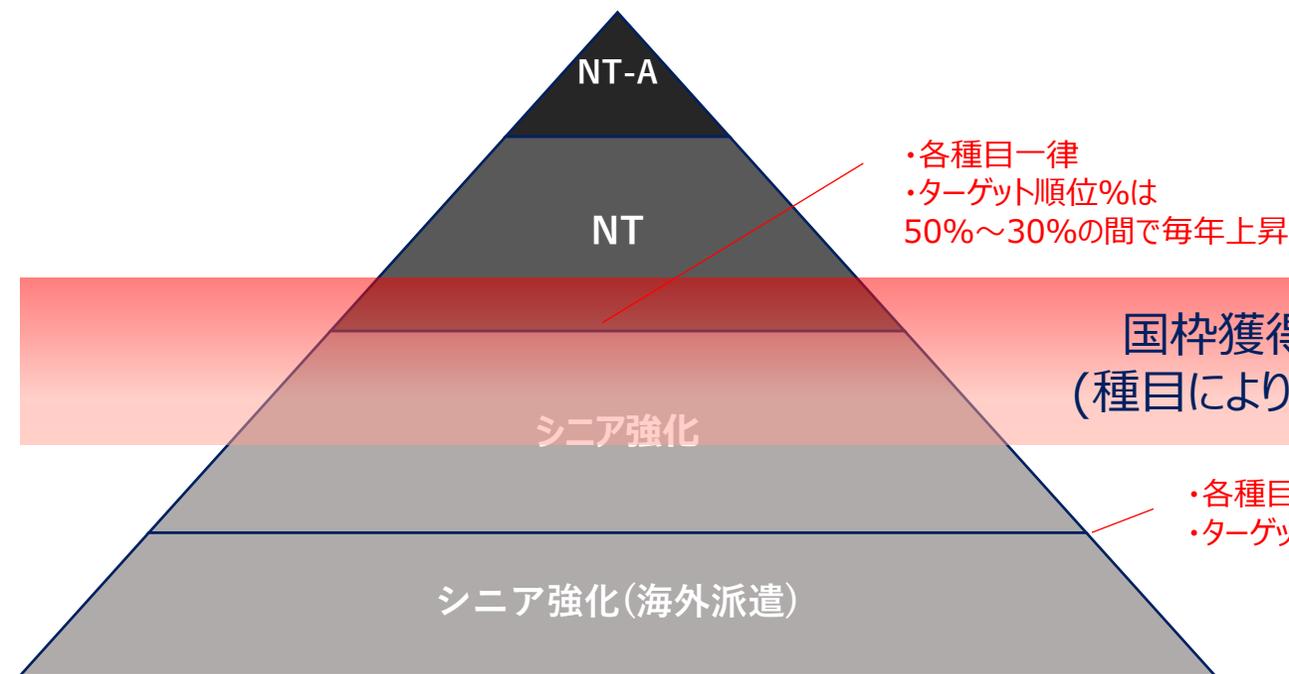


3-①. シニア選手 強化選手認定制度の見直しについて

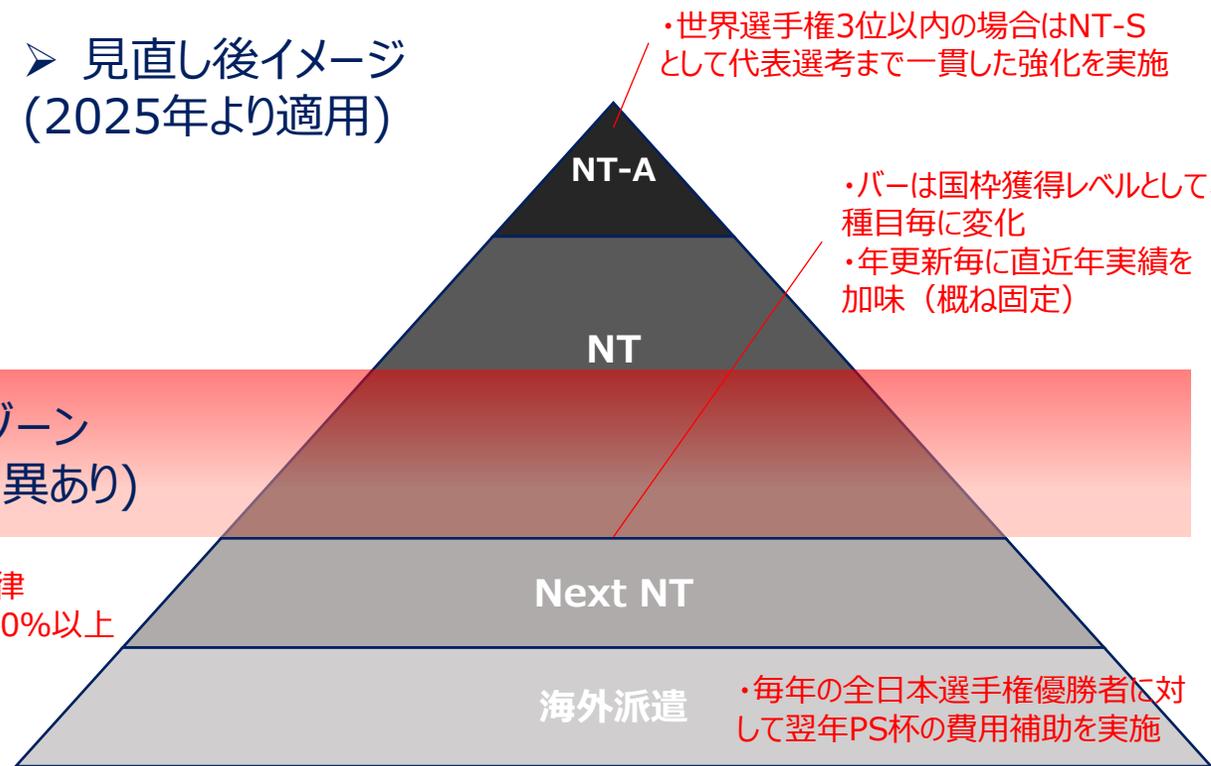
※説明のため便宜的に記載を簡略化しています。内容に齟齬がある場合は強化選手・スタッフ規程の認定サイクルが優先されます

- ✓ オリンピックに向けた国枠獲得、また本大会での入賞・メダル獲得という目標に向けたステップがより明確になるよう、シニア選手の強化選手認定制度を従来の3段階から、NT-S/NT-A、NT、Next NT、海外派遣の4段階に細分化しています。
- ✓ 上記のうちNTの要件を「各種目における国枠獲得レベル」とし、種目別にターゲット順位(%)を設定することで、オリンピック出場というターゲットに対して、認定大会(*)における現在位置を関係者が正確に把握でき、次なるターゲットの明確化が可能な仕組みとしています。 (*)各種目別世界選手権/プリンセスソフィア杯

➤ 見直し前イメージ

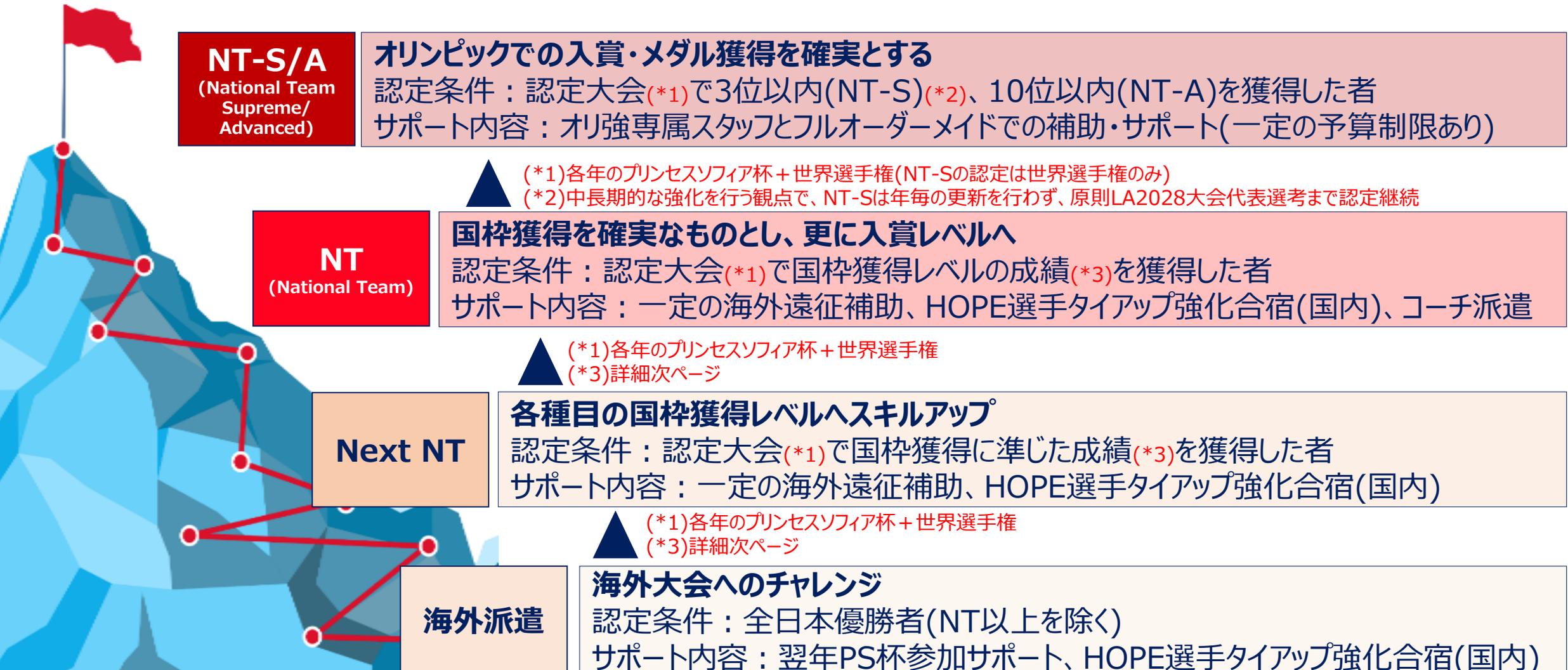


➤ 見直し後イメージ (2025年より適用)



3-②. シニア選手 新認定制度の認定条件・サポート内容 ※説明のため便宜的に記載を簡略化しています。内容に齟齬がある場合は強化選手・スタッフ規程の認定サイクルが優先されます

- ✓ 海外派遣/Next-NT/NT選手には、国内合宿を開催し競争力を高めると共に、一定程度の海外遠征について補助を行います。
- ✓ NT-S、NT-Aには、専属の担当者を設置してフルオーダーメイドでの強化・サポートを実施します。



3-③. シニア選手 新認定制度下におけるNT(=国枠獲得レベル)・Next NTのターゲット順位について

※説明のため便宜的に記載を簡略化しています。内容に齟齬がある場合は『強化選手認定サイクル補足資料：各クラス毎のターゲット順位と計算方法について』が優先されます

➤ 以下の算出方法に基づき、各種目別に認定大会でのターゲット順位(%)を設定しています。

●各種目別のNT/Next NTターゲット順位(%) 2025年

	470	49er	FX	Nacra 17	ILCA7	ILCA6	iQ男子	iQ女子	Kite 男子	Kite 女子
NT	60.9%	38.5%	51.2%	63.3%	41.9%	70.7%	43.8%	57.1%	47.0%	TBD
Next NT	73.3%	57.8%	72.9%	67.4%	52.3%	79.2%	57.5%	67.7%	57.4%	

ターゲット順位(%)の算出方法

- ① World Sailing作成のParis2024国枠ロジック(<https://stillmed.olympics.com/media/Documents/Olympic-Games/Paris-2024/Paris2024-QS-Sailing.pdf>)を使用、直近過去認定大会(2022年～2025年のPS杯/世界選手権 合計6大会)の国枠獲得シミュレーションを実行。ホスト国出場枠のカウントはフランス→アメリカに変更。
- ② 上記大会において大陸(アジア)枠あるいはラストチャンスレガッタ枠にて出場枠を獲得した国のうち、より数値(順位%)の大きな方をNTのターゲット順位に設定。なお、他大陸の未使用枠の再配分による増枠分やDeveloping Nationといった制度上の優遇条件は勘案しない。
- ③ ②のNT順位から3枠/5枠分後ろの国の順位(%)をNext NTのターゲット順位(%)に設定。原則NT順位から3枠までを対象とするが、各大会の参加国数が国枠数(世界選手権枠+大陸(アジア)枠+ラストチャンス枠の合算)の2倍を上回っている大会については通常対比で競争率がより高い大会と見做し、対象を5枠まで増枠。
- ④ ①～③の方法で算出した各大会におけるNT, Next NTターゲット順位(%)の平均値を算出し、各種目別のターゲット順位(%)とする。

4. 現状把握(2026年1月時点)

- ✓ 認定大会であるPS杯と各種目別世界選手権が終了、下表の通りParis2024世代に加えて、HOPE選手及びその他次世代選手のNT、Next-NT入りが実現しており、**新旧世代が入り交じった強化が進行中。**
- ✓ 470クラスはPS杯、世界選手権(6月)共に出場無し。直近国際大会では磯崎・関が入賞レベルの活躍を継続中。

強化対象選手一覧(2026年1月時点)

クラス	強化 カテゴリ	選手名	年齢	所属	2025 PS杯 (4月)	ILCA Worlds (5月)	iQFOiL Worlds (7月)	49er/FX World (10月)
FX	NT	田中 美紗樹 /永松 瀬羅	27 /31	株式会社豊田自動織機	14/46位 (30.4%)	-	-	29/52位 (55.7%)
	NT (HOPE)	市橋 愛生 /後藤 凜子	20 /20	早稲田大学 /青山学院大学	25/46位 (54.3%)	-	-	47/52位 (90.3%)
iQFOiL 男子	Next-NT	池田 健星	26	トヨタ自動車東日本株式会社	56/111位 (50.4%)	-	78/117位 (66.6%)	-
ILCA7	Next-NT (HOPE)	黒田 浩渡	22	ナブテスコ株式会社	93/174位 (53.4%)	59/137位 (43.0%)	-	-
ILCA6	NT	富部 柚三子	35	-	75/113位 (66.3%)	-	-	-
	Next-NT	舩澤 奈菜	17	鳥取県立米子東高等学校 /鳥取県セーリング連盟	-	72/99位 (72.7%)	-	-

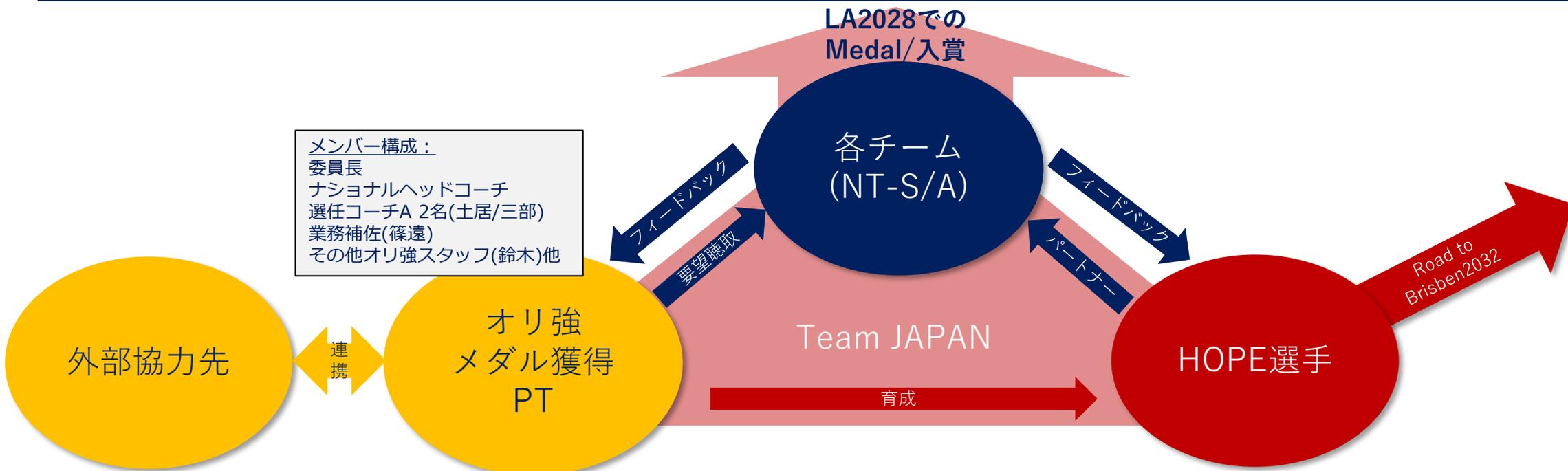
5. LA2028 の目標設定と中長期目標

- Paris2024においては470級において20年ぶりのメダルを獲得し目標を達成することが出来ました。
- 今後の中長期目標としては、**470級のメダル獲得を継続的に成し遂げることとともに、470級以外でのメダル獲得をチャレンジ目標として掲げ**、強化活動を推進して参ります。
- LA2028はBrisben2032までの過程として、470級での連続メダルの獲得を目標とすると共に、入賞1種目を現実的な目標値として設定し、既存のシニア選手とHOPE選手がお互いに切磋琢磨しながら高め合うことのできる環境構築を行って参ります。



6. LA2028メダル獲得PTの設置について

LA2028でのメダル獲得を達成すべくオリ強内でプロジェクトチームを結成、Paris2024での知見をブラッシュアップしながらNT-S/NT-Aチームへのサポートと、Team Japanとしての体制構築に向けて取組を開始します。



【PTのジョブディスクリプション】

- ✓ 対象のNT-S/NT-Aの選手/チームコーチが本大会でレースに集中できるよう「勝つ」ための体制を構築する
- ✓ 対象チームと協議を実施し、都度PTが取り組むべき内容について明確化した上でサポートを実施
- ✓ 外部協力先とも連携し、対象チームのニーズに応じた幅広いソリューションを提案、フィードバックを得る
- ✓ 対象チームとの協議を頻繁に行い、向かうべき方向性に修正点が無いか都度確認を行う
- ✓ 対象チーム、協力先、オリ強メダル獲得PTが一丸となってTeam JAPANを構築できるよう、体制整備を行う
- ✓ セーリング/トレーニングパートナーとして次世代選手(HOPE選手)が帯同できるよう選手の育成と企業チームとの調整を実施

7. LA2028 メダル獲得PT 2025年度の取組予定内容

【対象チームサポート】

- 各種目別世界選手権の成績により対象となったチームに対して各種サポートを開始。

【Team JAPANとしての体制づくり】

- LA現地の情勢、LA2028大会に向けたWS/組織委/各国の動向をチェックしつつ、現地でのサポート体制について検討を実施します。
- JSAF内外での協力者を募り、現地コミュニティとのコネクションを構築します。
- (必要に応じて) 現地の気象海況等の情報入手、チームへの還元を行います。
- オリンピックイヤーに向けた連盟広報・マーケティング体制の再構築に取り組めます。

Princess
Sofia
3/28~4/5

PT
発足

準備期間
体制構築

各種目
世界選手権

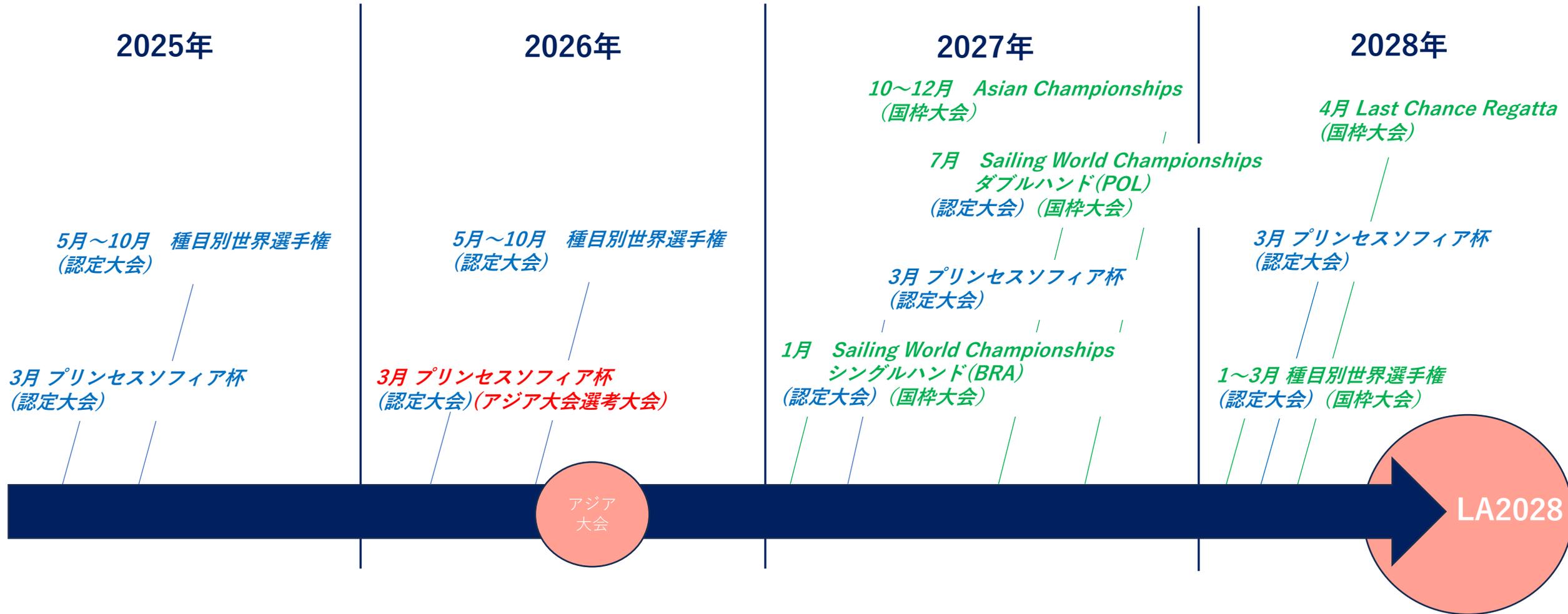
準備・強化期間
国内外強化合宿(冬期集中合宿等)
/体制構築

Princess
Sofia
4月



8. 参考：LA2028大会に向けたメルクマール

- LA2028大会までのキーとなる国際大会（強化選手認定大会・国粋大会等）は下記の通りです。（代表選考大会は未定）
- 国粋大会についてはParis2024大会に基づく想定ベースであり、今後適宜変更となる可能性があります。**



9. 次世代強化施策（HOPE育成プログラム）のコンセプト

- ✓ オリンピックでの活躍を志す選手が、ジュニア・ユース世代のうちからオリンピック艇種/オリンピックジュニア艇種に継続的に取り組む事ができる場として、2021年より「HOPE育成プログラム」をNTCと各強化拠点(境港・座間味・江の島)において実施しています。
- ✓ 12歳～21歳までの選手を毎年公募しており、2026年1月現在の在籍人数は21名です。
- ✓ プログラムにおいてはオリ強コーチによる個別海上指導とともに、ルール、気象、栄養、メンタル、自己PR、英会話、インテグリティ等の総合的な人間力の向上を目指す為の多種多様なカリキュラムが用意され、それぞれ専門スタッフが担当をしています。
- ✓ 在籍選手の実力の底上げは勿論、同プログラムに携わるスタッフ同士の知見の蓄積・共有の場としても活用し、積極的に外部人材を登用しながら、セーリング競技の専門知識を備えた優秀な専門人材を育成・輩出していくことも重要な目的の一つです。
- ✓ また、プログラム内で得られたデータや教材等を適宜公開していくことで、セーリング競技全体の底上げに貢献します。



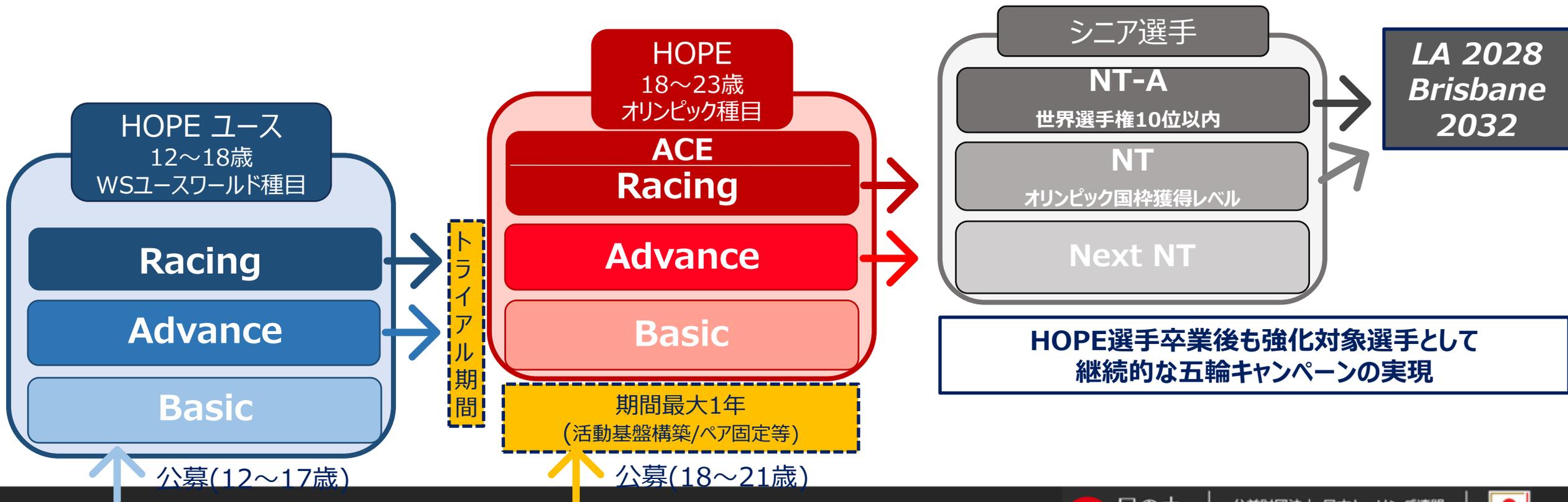
10. HOPE育成プログラムの目的・第一目標

- 「HOPE育成プログラム」は、WSユースワールド/種目別Jr.ワールドなどでの優勝を第一目標とし、オリンピックで活躍する選手の輩出を目的としています。
- 併せて、2026年9月に愛知・名古屋で開催されるアジア競技大会において、複数クラスでのメダル獲得を目標とします。
- プログラムは2025年1月～2028年12月の4年間を一つのタームとして捉え、長期的な育成計画を展開します。



11. HOPE育成プログラムの階層構造

- 原則として12～18歳の選手は「HOPEユース選手」に区分され、WSユースワールドでの金メダル獲得に向けてWSユースワールド種目に取り組みます。
- 18～23歳までの選手は「HOPE選手」に区分され、種目をオリンピック種目に切り替え、同種目での活動とJr.ワールドでの金メダル獲得に目標を定めて活動を行います。
- それぞれの区分で目指すべき目標が異なるため合宿内容については違いがあり、ユースから移行の際にはオリンピック種目への移行準備期間として、最大1年間のトライアル期間が設けられています。
- 各区分にはBasic, Advance, Racing(+ACE)の3つの階層が存在し、選手レベルに応じた学習・補助内容が設定されます。



12. HOPE育成プログラム内容

- ✓ HOPEユース選手は1回/月のHOPE合宿と個別合宿、HOPE選手は冬季合宿/クラス別合宿を年間計画に沿って実施。
- ✓ 合宿では帆走技術、フィジカル、栄養、メンタル、ルール、気象、インテグリティ、英会話、自己アピール等多岐に亘る分野の実習を行い、3ヶ月に1回の進捗評価と定期的な選手ヒアリングを行い選手の成長を確認し、適宜内容のアップデートを行っています。

海上練習



トレーニング



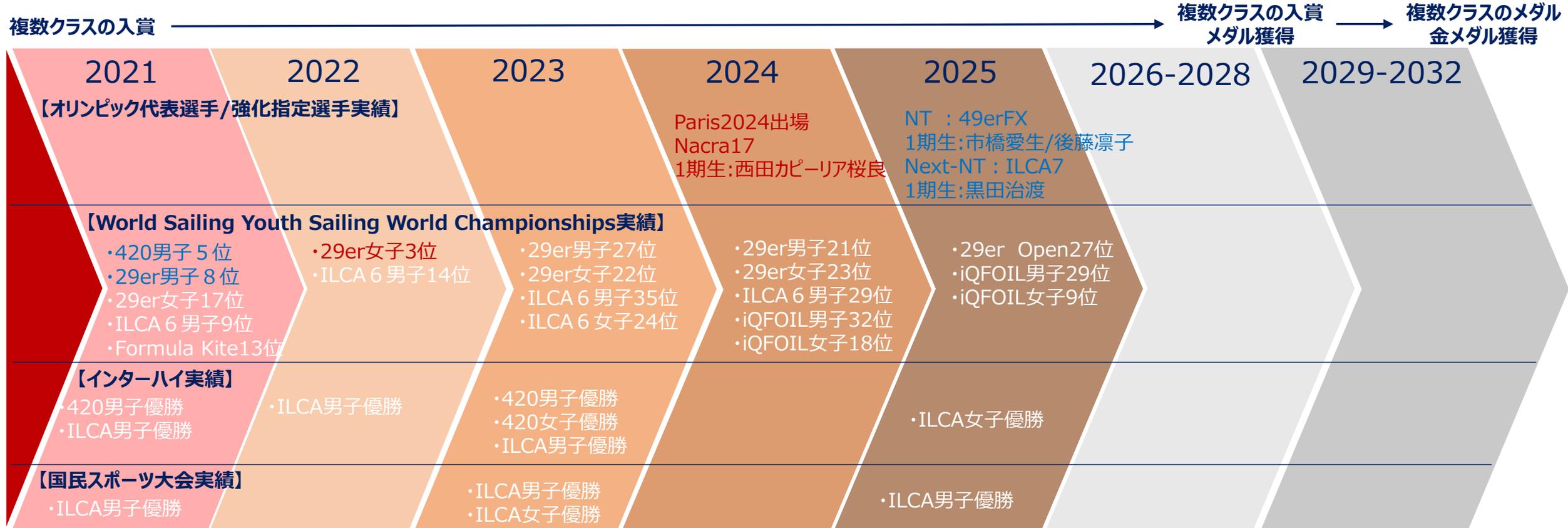
各種講習会



13-①. これまでの成果(競技成績面)

- ▶ 2021年よりスタートしたプロジェクトも5期目となり、第1期生が2024パリオリンピック出場、2025年にはNT、Next-NT等の強化対象選手に認定されるなど、結果が出始めている状況です。
- ▶ また、NT,Next-NTに認定されたHOPE選手はいずれも20歳～21歳と前例のないスピードでの成長が見られています。
- ▶ 他方で、ユースワールドでのメダル獲得は2022年以來達成できておらず、主にHOPEユース選手の制度設計の見直しを含めてプログラム内容のアップデートを行っています。

● マイルストーンと実績

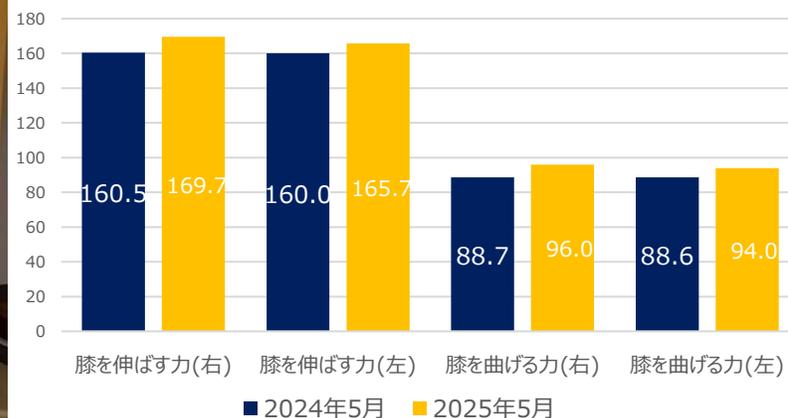


13-②. これまでの成果(フィジカル面)

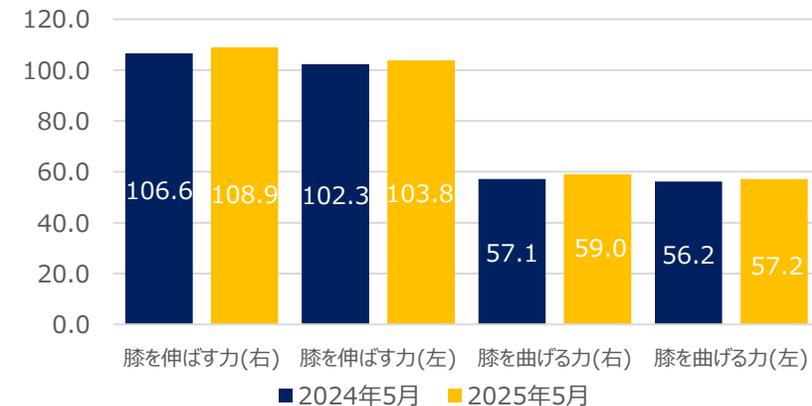
- ▶ これまで合宿期間内での一括指導が中心でしたが、2024年6月からオンライン等を活用した個別トレーニングプログラムを実施しています。
- ▶ 競技特性に応じた体幹・下半身の筋力強化、無酸素・有酸素パワー向上、体組成最適化を進め、短期間でHOPE選手全体の基礎体力の底上げを達成しました。こうした身体的進化は、各艇種で求められる安定性・持久性・出力効率を大幅に高め、直近成績の向上に寄与しています。
- ▶ 2025年はこの基盤をさらに発展させ、HOPEユース選手に対しても同様のノウハウを展開することで、世界大会でのさらなる飛躍を目指します。



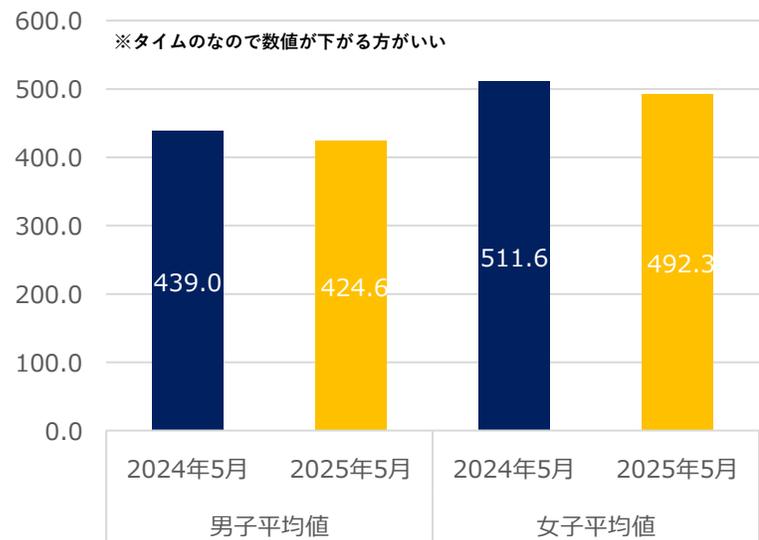
筋力の評価 膝を速く動かすときの筋力 (男子平均)



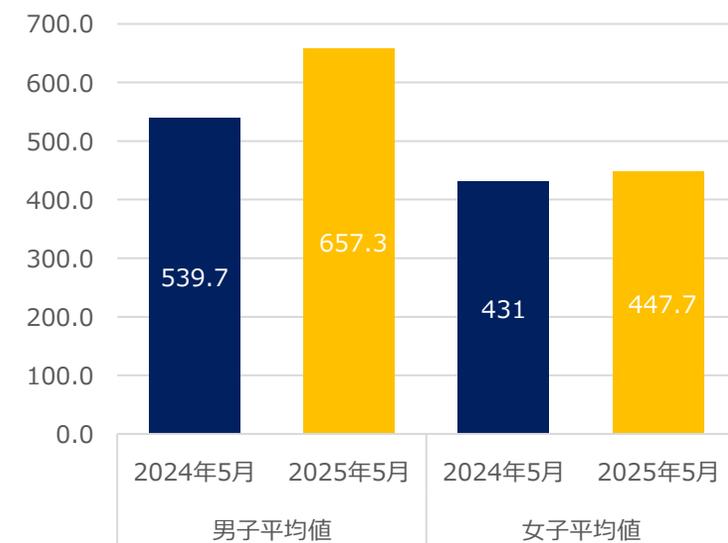
膝を速く動かすときの筋力 (女子平均)



有酸素性能の評価 2000mローイングタイム



無酸素性能の評価 瞬間的に出せる最大の力 (ワット数)



2026年 第6期HOPE育成プログラム 年間スケジュール

	HOPE			HOPEユース		
	開催場所	開催日程	日数	開催場所	開催日程	日数
第1回	沖縄/座間味	1/17(土)–1/25(日)	9日	沖縄/座間味	1/3(土)–1/12(月祝)	10日
第2回	沖縄/座間味	2/21(土)–3/1(日)	9日	沖縄/座間味	2/7(土)–2/15(日)	9日
第3回				沖縄/座間味	3/14(土)–3/22(日)	9日
第4回	JISS/和歌山NTC	体力測定 (4月中)	2日	JISS/和歌山NTC	体力測定 (3月中)	2日
第5回				鳥取/境港マリーナ	4/25(土)–4/29(水祝)	5日
第6回				鳥取/境港マリーナ	5/21(木)–5/24(日)	4日
第7回				JISS/和歌山NTC	チームビルディング 6/20(土)–6/21(日)	2日
第8回				鳥取/境港マリーナ	7/26(日)–7/31(金)	6日
第9回				鳥取/境港マリーナ	8/17(月)–8/23(日)	7日
20 th Asian Games Aichi-Nagoya 2026 開催場所：愛知県・海陽ヨットハーバー 9/23(水)–10/3(土)						
第10回	JISS/和歌山NTC	体力測定 (10月中)	2日	JISS/和歌山NTC	体力測定 (10月中)	2日
第11回				鳥取/境港マリーナ	11/4(水)–11/8(日)	5日
第12回	沖縄/座間味	12/19(土)–12/29(火)	11日	沖縄/座間味	12/19(土)–12/29(火)	11日

+

上記日程に加え、クラス別強化合宿を下記原則にて開催
※日程については選手ヒアリングを基に要調整

+

個別合宿	HOPE			HOPEユース		
	各強化拠点	5~8日間×8回 (上記第3回~第10回に相当)	64日 (*目安)	各強化拠点	3日間×12回 (週末3日間)	36日 (*目安)

HOPE : 計97日

HOPEユース : 計108日

15. トレーナー・栄養分野の組織体制強化と標準化推進PTの設置について

- ✓ 在籍選手の成長に伴い、より各選手の状況・目標等に寄り添った個別指導の重要性が増しています。海上指導においては各クラス別担当コーチが既に個別指導を行っており、陸上トレーニングにおいてもHOPE選手については個別メニューの取組が進んでいますが、今後HOPEユース選手や栄養部門においても同様に個別指導を実施できる体制を整える必要があります。
- ✓ 具体的には、トレーナー・栄養部門にそれぞれ統括・副統括を設置して全体管理を行うとともに、各スタッフの役割分担を明確化して個別課題の把握・解決を行う体制を2025年度中に整えます。
- ✓ 他方で、個別のアプローチのベースとなる標準的手法を確立・発展させるために「標準化推進PT」を組織内に立ち上げ、コーチング・トレーニング・栄養の3分野が一体となって、それぞれの分野での競技スペシフィックなベースの知見を共有し、基礎教材の開発・提供等を行って参ります。

海上指導

陸上トレーニング ※組織体制の強化

栄養 ※組織体制の強化

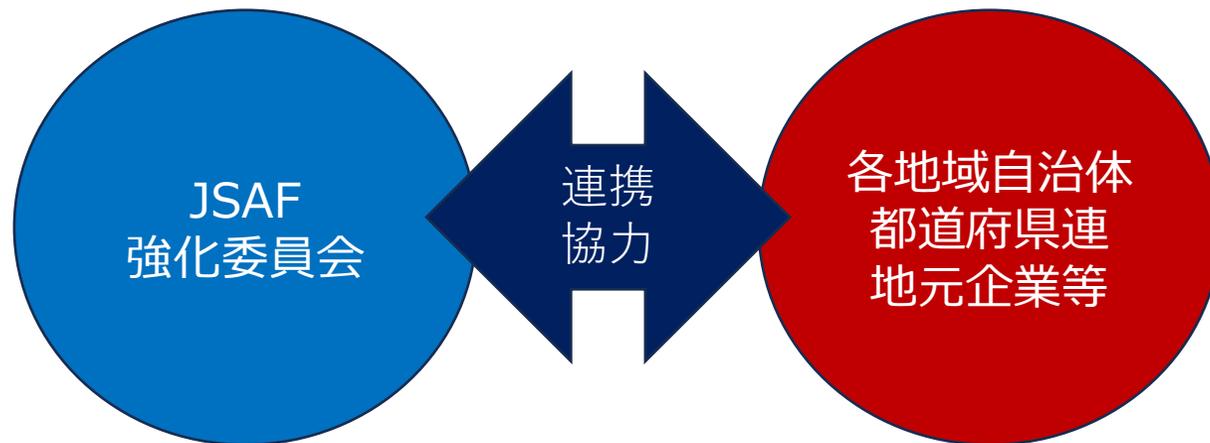
指導レベル

各コーチ・スタッフ間で個別指導内容を連携し、各選手の課題解決に従事

基礎的な部分を「標準化推進PT」でカバーし、標準的手法を開発
メンバーは委員長、ヘッドコーチ、PT担当コーチ、トレーナー統括・副統括、栄養統括・副統括にて構成

16. ナショナルトレーニングセンター(NTC)・競技別強化センターとの連携強化

- ✓ セーリング競技においては和歌山にナショナルトレーニングセンター(NTC)、境港、座間味、江の島の3拠点に競技別強化センターが設置され、現在当該4拠点を活用して全てのHOPE育成プログラムの合宿と、HOPE選手の個別合宿の多くを実施しています。
- ✓ それぞれの拠点の特性を踏まえつつ継続的に活用させて頂くことで、各拠点の競技環境整備や地元医療機関等との医科学連携を進めて頂くと共に、地元のセーリング連盟・自治体・企業等と連携をして各地域の競技・コミュニティの発展に寄与して参ります。



- ・地域と連携した育成・強化スキームの検討・実施
- ・各種地域振興施策への協力
- ・地域プロモーションへの協力
- ・地元企業とタイアップした各種事業への参画検討・実施
他

- ・拠点環境の整備(競技艇・施設等)
- ・地域医療機関等との連携、測定機器等の導入
- ・宿泊先の確保・連携
- ・企業版ふるさと納税の活用スキームの検討
他



※2025年4月、沖縄県座間味村と「セーリング競技強化拠点整備に関する覚書」を締結

17. 連盟パートナーとの連携強化、新規パートナーの獲得

- ✓ 既存連盟パートナー様との連携をこれまで以上に強化し、プロモーション等への協力、共同での商品開発、使用者(連盟メンバー)へのヒアリング実施等、パートナー様のニーズに積極的に応えることでお互いにメリットを創出できる関係性を目指すとともに、競技認知度の向上に寄与すべく広報戦略を含む各種取組みを進めて参ります。
- ✓ 相互共創型のモデルケースを創出、展開していくことで、新規のパートナー候補の方々にとって魅力ある提案を行います。

(例1)HOPE選手ユニフォームへのロート製薬株式会社様ロゴの
掲示とご提供商品のプロモーション



(例2)ショーワグローブ株式会社様の新商品開発を見据えた
製品開発ご担当による競技特性の確認



18-① 在籍選手(HOPE)データ (2026/1/24現在)

クラス	選手名	年齢	艇種乗艇歴	所属	2026強化種別	備考
49er FX	市橋 愛生 /後藤 凜子  	20/20	3年0ヵ月	早稲田大学 /青山学院大学	HOPE Racing (NT)	2025Jr.世界選手権(7月) : 10/29位(34.4%) 2025PS杯(4月) : 25/46位(54.3%)→ NT 2025世界選手権(10月) : 47/52位(90.3%)
49er	嶋倉 照晃 /上園田 心太浪  	21/22	4年0ヵ月	早稲田大学 /佐賀県ヨット連盟/ SAGA MIRAIプロ ジェクトJV	HOPE Advance	2025Jr.世界選手権(7月) : 11/53位(20.7%) 2025PS杯(4月) : 65/91位(71.4%) 2025世界選手権(10月) : 60/84位(71.4%)
	後藤 大志 	18	3ヵ月	横浜市立南高等学校	HOPE Basic	※高村 拓豊選手とペア
ILCA7	黒田 浩渡 	22	4年11ヵ月	ナブテスコ株式会社	HOPE Advance (Next-NT)	2025PS杯(4月) : 93/174位(53.4%) 2025世界選手権(5月) : 59/137位(43.0%) → Next-NT
	豊澄 成光 	18	1年5ヵ月	九州大学	HOPE Advance	2025U21世界選手権(8月) : 41/139位(29.4%) 2025世界選手権(5月) : 105/137位(76.6%)
470 MIX	占部 心美 	19	1年0ヵ月	同志社大学	HOPE Basic (トライアル期間)	2025Jr.世界選手権 : 20/42位(47.6%)

18-② 在籍選手(HOPE)データ (2026/1/24現在)

クラス	選手名	年齢	艇種乗艇歴	所属	2026強化種別	備考
iQFOiL ユース/ 男子	小藺 正虎 	18	2年7ヵ月 (ユースと して)	福岡県香椎高等学校	HOPE Basic	2025U19世界選手権：125/149位(83.8%) 2025Youth Sailing Worlds:29/38位(76.3%)

18-③ 在籍選手(HOPEユース)データ①(2026/1/24現在)

選手名	年齢	取組種目	在籍年数	所属	強化種別	備考
大島 朱莉 	17	iQFOiユース	第3期生(4年目)	立命館守山高等学校	Racing	2025U19世界選手権：40/53位(75.4%) 2025Youth Sailing Worlds:9/26位(34.6%)
豊澄 麻希 	17	ILCA6	第2期生(5年目)	広島なぎさ高等学校	Basic	2025U21世界選手権(8月)：57/73位(78.0%)
ダウスト 絵麻 	17	iQFOiユース	第3期生(4年目)	立命館守山高等学校	Racing	2025U19世界選手権：40/53位(75.4%) 2025Youth Sailing Worlds:27/30位(90.0%)
豊澄 隆成 	16	ILCA6	第4期生(3年目)	広島なぎさ高等学校	Basic	2024ILCA6Youth世界選手権:78/95位(82.1%)
高濱 奈菜 	15	iQFOiユース	第4期生(3年目)	昭和学院中学校	Basic	2025U17世界選手権：38/48位(79.1%)
梶村 幸永 	16	420	第5期生(2年目)	山口県立光高等学校	Basic	田中とペア

(※)国際大会に出場経験のある選手は直近実績を記載

18-④ 在籍選手(HOPEユース)データ② (2026/1/24現在)

選手名	年齢	取組種目	在籍年数	所属	強化種別	備考
高村 拓豊 	15	49er (FX/ iQFOiLユース)	第5期生(2年目)	山梨県立富士北陵 高等学校	Basic	後藤(大)とペアを組んで49erを取組開始
田中 大基 	15	420	第5期生(2年目)	山口大学教育学部附属 光義務教育学校	Basic	梶村とペア
岩波 将吾 	16	ILCA6	第6期生(1年目)	ドルトン東京学園	Basic	
中村 和愛 	15	420	第6期生(1年目)	平生町立平生中学校	Basic	
マーズデン 珀空 	14	29er	第6期生(1年目)	北海道 インターナショナルスクール	Basic	
マーズデン 琥海 	13	29er	第6期生(1年目)	北海道 インターナショナルスクール	Basic	

(※)国際大会に出場経験のある選手は直近実績を記載



公益財団法人 日本セーリング連盟
オリンピック強化委員会
Japan Sailing Federation Olympic Training Committee

